

# 辻町遺跡 4次調査

～古墳時代と中世の集落跡の調査～

遺跡名称 辻町遺跡(4次)  
調査場所 松山市南江戸5丁目  
事業者 愛媛県中予地方局  
調査主体 公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター  
調査期間 令和3年4月～令和5年3月(予定)  
調査面積 3,319m<sup>2</sup>

辻町遺跡の発掘調査は JR 松山駅付近連続立体交差事業の一環として愛媛県が実施する都市計画道路「松山駅西口南江戸線」整備に伴い、松山市辻町から南江戸付近に広がる辻町遺跡の記録保存を目的として行っているものです。辻町遺跡はこれまでに松山市によって発掘調査が3回行われ、今回の4次調査は令和3年4月から開始し、令和5年3月末までの予定で行っています。

発掘調査では、古墳時代と中世の集落跡をおもに確認しました。

## 古墳時代の辻町遺跡

これまでに<sup>たてあな</sup>竪穴建物(住居)が8棟(2次調査分を含め)見つっています。いずれも5世紀の中頃から後半(古墳時代中期)にかけてのものと考えられます。それぞれの建物の西壁には造り付けカマドが備えられています。それらの中には、カマドとその周辺に土師器の高杯や甕が残されているものもありました。こうした状況は多くの場合、<sup>はいちく</sup>廃屋にする際にマツリを行った証<sup>あか</sup>しと考えられています。

また、集落の東側には沼地があったこともわかりました。沼の岸辺近くには須恵器や土師器が捨てられていましたが、意図的に須恵器の壺に穴を開けたり、蓋<sup>ふた</sup>のつまみを取り去るなどして使えなくしているものがあることから、何かのマツリに使われた器物<sup>きぶつ</sup>であると考えられます。この一帯は宮前川が氾濫することから、しばしば洪水に見舞われる土地であることから、水害に関係するマツリが行われていた可能性も考えられます。

今回の調査では集落の東西両端を確認することができました。遺跡の西隣にある大峰ヶ<sup>おのみねが</sup>台丘陵には数多くの古墳が造営されています。これまで、このエリアでは辻町遺跡以外に古墳時代の集落が見つかっていないことから、今回の調査で確認された集落とこれらの古墳群との関係が注目されます。





竪穴建物 S14 から出土した須恵器器台



竪穴建物 S14 から出土した土師器甗



竪穴建物 S14 から出土した土師器高杯



竪穴建物 S12 から出土した土師器甗



竪穴建物 S14



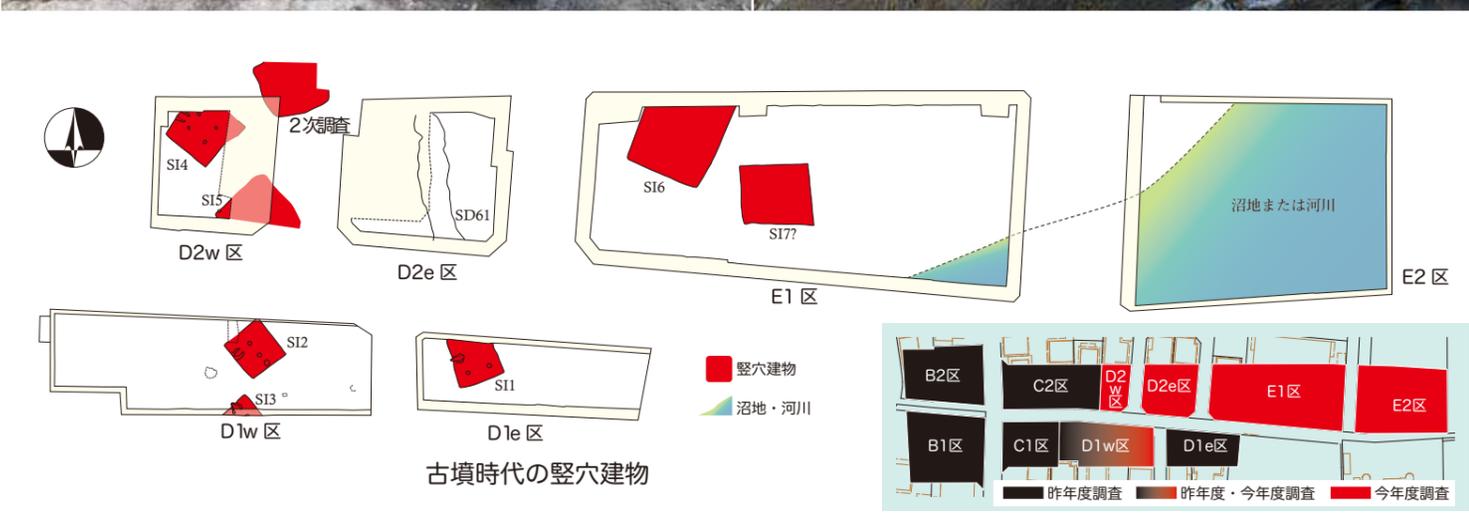
竪穴建物 S12



竪穴建物 S12 のカマド付近から出土した土師器甗



E2 区の沼地から出土した須恵器壺



## 中世の辻町遺跡

昨年度の調査では、平安時代の終わり頃（11世紀後半）に始まって、江戸時代の初め頃（16世紀）まで存続した集落と、川を隔てた南側に室町時代の後半（15世紀後半）以降に墓地が作られていたことわかりました。

今年度の調査では、集落の東側に湿地が広がり、そこに水田が造られていたこともわかりました。水田には人や牛の足跡が数多く残っていました。

集落の中には数多くの建物の柱穴や土坑などに加えて、5基の井戸も発見されました。これらの井戸は互いに近接して掘られていて、その内の3基は互いに重複しています。集落の中心に近い場所から、水を求めて東側のより低い場所へ造り直していったと考えられます。

そのほかにも五輪塔や生活残滓を捨てたゴミ穴、土師器の皿や碗、瓦器碗や白磁碗を建物の柱を抜き取った後の穴に納めているものなども見つかっています。また、井戸の近くからは土師器の皿の内側に何かの願いを込めたと考えられるまじないの絵や文字を描いたものも出土しています。

今年度の調査では、中世の集落の構造を知るとともに、当時の村落の景観を復元するための良い資料を得ることができました。



重複する3基の井戸 (E1区 SE2~4)



五輪塔を捨てた穴 (E1区 SK91)



柱穴に埋納された白磁碗 (E1区 SP1050)



まじないを描いた土師器皿



ゴミを捨てた穴 (E1区 SK85)



水田に残された足跡 (E2区)